

Technical Information

水溶液型銀系抗菌剤・抗ウイルス加工剤

AG アルファ® CF-01

各種ウイルスへの不活化効果データ

1. 概要

AG アルファの抗ウイルス性能について、下記の通り試験を実施し、性能について確認しております。

- | | |
|----------------|--|
| (1) 試験ウイルス | ・ A 型インフルエンザウイルス(H1N1)
A/PR/8/34;TC adapted ATCC VR-1469
・ ネコカリシウイルス(F-9)
Feline calicivirus; Strain: F-9 ATCC VR-782 |
| (2) 試験サンプル | AG アルファ®CF-01 2%水溶液（一部 0.2%水溶液） |
| (3) 試験条件 | |
| ウイルス懸濁液：試験サンプル | 1:100 |
| 作用温度 | 25℃ |
| 作用時間 | 5 分または 30 秒 |
| 対照試料 | PBS |
| 感染価測定方法 | プラーク測定法 |
| (4) 試験結果 | 下表 1. の通り |

表 1. CF-01 2.0%希釈水溶液*1 の各種ウイルスへのウイルス感染価*2(PFU/mL)

		作用時間	
		5 分	30 秒
対象	A 型インフルエンザウイルス	2.1	2.1
	ネコカリシウイルス	>2.3	(1.7*1)

*1…CF-01 0.2%希釈水溶液を試験に供した際の参考データ

*2…対照試料のウイルス感染価と試験試料のウイルス感染価の差分を常用対数で表し、試験試料のウイルス感染価減少率を算出した。

- ・A型インフルエンザウイルスに対して、2.0%に希釈調製したCF-01水溶液では作用時間によらず同等の不活化効果を示したことから、ウイルスとの接触～作用は比較的即効性があるものと推察されます。
- ・ネコカリシウイルスに対しても、CF-01 2.0%水溶液を5分間作用させることで感染価を99%以上減少させるとともに、その機能は、A型インフルエンザウイルスに対するものよりも効果的であると推察されます。
- ・ネコカリシウイルスに対して、CF-01の0.2%希釈水溶液では、感染価抑制は99%に達しませんでした。希釈倍率を下げる（接触濃度を上げる）ことにより、十分な効果を発揮する可能性があります。

2. 試験方法

- 1) 主細胞にウイルスを感染させ、培養後、遠心分離によって細胞残渣を除去したものをウイルス懸濁液とした。
- 2) (1)で得られたウイルス懸濁液を限外ろ過し、滅菌済超純水で再懸濁したものを試験ウイルス懸濁液とした。
- 3) 試験サンプル10 mLに試験ウイルス懸濁液を0.1 mL加え、25°Cで所定時間静置した。
- 4) 放置後の混合液0.5 mLを薬剤不活化剤4.5 mLに加え、混合した。
- 5) プラーク測定法にてウイルス感染価を測定した。

以上

※ 製品に関するお問い合わせ先

化成品東京営業グループ Tel. 03-6285-2817 Fax. 03-6285-2818
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-6-1 菱和ビル 8F

化成品大阪営業グループ Tel. 06-6441-2414 Fax. 06-6441-4511
〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀 1-9-1 肥後橋センタービル 14F

HOME PAGE : <https://www.mgcwoodchem.com/>